



こまくさ

平成29年
12月21日(木)
No.39

《教育目標》 ~夢に向かって やさしく! かしく! たくましく!~

昨日に続き、社会科研究発表会の6年H.さんの要旨と外国語活動の様子です。



林業の世界にせまる

生保内小学校6年 H.

1 研究のきっかけ

私の家は林業の会社をやっています。林業とは、人の手で森を作る仕事です。木を育て、森を作り、育った木を切って売る産業です。そこで、私の家の仕事は、どのようなことをしているのかを調べてみようと思って研究をすることにしました。

2 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

- ① 会社はいつできたのか
- ② 会社は何社あるのか
- ③ 木を切るほかに何をする会社なのか
- ④ 木を切る機械の名前は何か
- ⑤ 木を切ってどうするのか
- ⑥ 木材を輸入することはあるのか
- ⑦ 木材チップはどうやってできるのか
- ⑧ 木を切ると減っていくことはないのか

(2) 研究の方法

私の祖父と会社の方々へインタビューをする。8つの質問をもとに結果を模造紙にまとめる。

3 調べた結果

(1) インタビューから

- ① 会社は昭和28年に山から木を切り出す仕事を始めました。会社となったが昭和59年です。
- ② 現在、会社は、私の家である本社、田沢湖工場、角館のきたうら工場の3つがあります。
- ③ 会社の仕事は大きく3つに分けられています。本社では、山の木を切り、丸太を生産する仕事です。きたうら工場では、丸太を製材して建築材などの柱や板に加工する仕事です。田沢湖工場では、建築材として使えなかった木材を発電燃料用チップに変える仕事をしています。
- ④ 木を切る機械は、「ハーベスタ」や「プロセッサ」といいます。丸太の枝を払い、同じサイズに切りそろえます。チェーンソーでやると20分程度かかるのに、プロセッサは、2、3分でやることが出来ます。
- ⑤ 切った木は、丸太にして製材所やチップ工場に買ってもらいます。
- ⑥ 木材は輸入することなく、すべて秋田で育った木をあつかっていて、主にスギを生産しています。
- ⑦ 建築材として使えない木材を、細かくくだけ木材チップを作り、「木質バイオマス発電所」へ運びます。
- ⑧ 木を切った後は、苗木を植えるので、木は減っていくことはなく、また新しい森が作られます。植えた木をしっかり人の手で管理することで、環境を守っています。

(2) 集材から丸太生産作業について

① 木の切り出し

ハーベスタやプロセッサで木を切り出します。チェーンソーを使うときもあります。

- ② 木寄せ
グラップルで路工わきの土壤に集めます。
 - ③ 集材
グラップルで持ち上げ、フォワーダというトラックに積み、林道のわきまで運びます。林道わきに配置されたもう1台のグラップルで木材を集めます。
 - ④ 建築材用木材加工
丸太の皮をむき、製品ごとのサイズに大きく割っていきます。その後、それぞれ板材や角材などの製品に加工していきます。製品のサイズごとに分け、束にして出荷します。
- (3) 木材チップ生産について
- ① 燃料用チップの原料となる丸太を工場で受け入れます。
 - ② 受け入れをした丸太を、油圧ショベルやグラップルを使って、同じ種類、同じ長さに分けて積む作業を行います。
 - ③ チップにする丸太をローダーという機械に入れます。ローダーに入った丸太は、自動でチップパーという機械に運ばれ、細かくされます。
 - ④ 細くなった木のチップは、スクリーンという機械で、大きさごとに分けられます。分けられたチップは、ストックヤードで保管されます。

4 研究して分かったことや考えたこと

- (1) 集材作業からチップ製造まで、どのように行われているのか、チップは何に使われているのかが分かりました。
- (2) 今まで建築用としては使われず、捨てられていた木材がチップとなり、電気を作るエネルギーになっていたことにおどろきました。
- (3) 何度も生まれ変わる森が、私たちの暮らしに役に立っています。そのために、林業で働く人たちはたくさんの工夫や努力をしているのだと思いました。森林だけでなく、いろいろな資源や物を大切にしていきたいと思います。

外国語活動

外国語活動は、楽しく意欲がわくようにすることが大切であることを昨日お伝えしました。19日(火)の5梅の研究授業は、子どもたちが意欲的で、手本になるような学習であったこと、積み重ねがあり、学習の進め方等すばらしいことなど指導主事の先生から褒めていただきました。

始まりのあいさつ、途中の発問、説明等始まりから終わりまでほぼ英語で進められた授業ですが、これは毎時間の積み重ねがあつてできることです。本校の担任たちは、得意、不得意はともかく、英語で伝えようと授業に臨んでいます。子どもたちもそれに慣れていきます。あるタレントさんのように、言葉を知らなくても、身振り手振りを交えてとにかく伝えようと一生懸命になることが大切です。

次に、授業の構想です。子どもたちが自分でクイズを考え、準備したのだから意欲的に取り組みました。写真のように、笑顔と笑い声の絶えない授業でした。

そして、電子黒板、タブレットPCなどの情報機器を上手に使ったり、子どもたちがタブレットPCを使ったりと、普段から使い慣れていることも褒めていただきました。

来年度から5・6年は英語になり、3・4年生が外国語活動になります。どのように進めるか、2月の参観日で説明する予定です。

